

事務事業名	ブックスタート事業				☐ マニフェスト関連		☒ 全庁横断課題関連			
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課		
施策名	計画 23	子どもを見守り、育てる地域づくり			所属係	図書館班	課長名	野本 立一		
基本事業名	体系 90	相談支援体制の充実			担当者名	坂本 好幸	電話番号 (内線)	096-242-5555		
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 08	事業	法令根拠				
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 14 年度 ~) (年度 ~ 年度)									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容) ・ブックスタートとは、0歳児の赤ちゃんとその保護者が絵本を使って対話し、親密で温かなふれあいの時間を 持ってもらふことを目的とし、またその後の子育てにおいて、絵本を通じて子どもの創造性やこころの成長を育 んでいくことを促進する事業です。 (業務の内容) ・毎月1回の乳児健診(7ヶ月児)時に、図書館の職員が子どもの心を育む本との関わりを説明し、2冊の絵本 が入ったブックスタートパックを手渡している。 ・年間分の絵本パックの購入、人数を把握して配布の準備、市内2ヶ所の健診場所での配布の準備、配布 (予算の内訳) 報酬(非常勤職員の手当)、需用費(消耗品費・絵本の購入費)、パンフレット用紙代、燃料費等						総 投 入 量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源		
							事業費計 (A)		0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間		
							人件費計 (B)		0	
							トータルコスト(A)+(B)		0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

7ヶ月健診時に絵本の配布と読み聞かせの指導を行った。
ブックスタートに使用する絵本の統一を図った。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

「18年度と同じ」

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

0歳児とその保護者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

絵本を通じて保護者と赤ちゃんの対話のきっかけとしてもらう

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

子育ての不安を解消できる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア ブックスタートパック配布数	件
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 出生者数	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 図書館での絵本の貸出冊数	冊
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 相談件数	件
イ ファミサボ利用件数	件
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円			1,130	1,074	1,074	1,074	1,074
			事業費計 (A)	千円	0	0	1,130	1,074	1,074	1,074	1,074
	人件費	正規職員従事人数		人			3	3	3	3	3
		延べ業務時間		時間			180	180	180	180	180
		人件費計 (B)		千円	0	0	715	715	715	715	715
		トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	1,845	1,789	1,789	1,789	1,789
活動指標		ア イ ウ	件			650	650	650	650	650	
対象指標		ア イ ウ	人			650	650	650	650	650	
成果指標		ア イ ウ	冊			98,323	100,000	100,000	100,000	100,000	
上位成果指標		ア イ ウ	件 件								

事務事業名	ブックスタート事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等					
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？					
・旧西合志町では平成13年度、議員の一般質問をきっかけに平成14年度より開始 ・旧合志町では、平成13年度に絵本を配布するのではなく、保護者に絵本の紹介から開始。平成14年度より予算がつき進捗を開始。					
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
・最近、家庭内での虐待、核家族化の進行などで子育ての悩みなど保護者と子どもとの対話、子育てそのものができていない状況が顕著になってきている。 ・開始時期は事業の実施自治体が少なかったが、現在では多くの自治体で実施しており事業の浸透が図られている。 ・旧西合志町については、3ヶ月健診時から7ヶ月健診時に配布時期を変更した。					
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？					
・保護者から、2人目、3人目の子どもに対して1人目と同じ絵本を配布する時があるので、違った絵本にして欲しいという要望がある。 ・配布時に、保護者からは喜んでいただいている。					

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

合志市

事務事業名	ブックスタート事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

- ・絵本を通じた対話をさらに進めてもらう余地がある。
- ・おはなし会の時などに、同年代の子どもを持つ親同士の語らいの場を設ける等子育ての悩みの解消を図る。
- ・2～3歳児への事業を行うことにより、更なる浸透と親のためのサポートを行う。
- ・報酬(非常勤職員の手当て)については、完全にカットできるわけではないが、ボランティアなどできるだけ市民の協力が得られれば多少の削減余地はある。
- ・健診の際、次の検査の待ち時間などを利用して効率よく絵本を配布すれば、多少の時間短縮の余地はある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

- ・絵本の選定を定期的に替えていくなど、効果を高めるために検討していく。
- ・本との関わりをさらに深めてもらうために、お話し会などで読み聞かせの実態の把握や、2～3歳児向けの事業など、現事業のサポートを検討していく。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

- ・健診時の調整や、子育てに関する事業の調整などで、健康づくり推進課、子育て支援課との連携を行う必要がある。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項